

第37号

2017年 7月1日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail:kouhou@kbsnjinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680



地域に愛される園を目指して

真生きらきら保育園十年を振り返って

神戸真生塾理事・真生きらきら保育園園長 上杉 徹



イエスは「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」と我々に語りかけています。夏の終わりに実を結ぶ「ぶどう」は枝を通して木につながっていることで大地の恵みを吸い上げ「豊かな実」を結びます。続いてイエスは「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっているれば、その人は豊かに実を結ぶ。」とわたしたちを招いてくださっています。神さまとイエスさまの深い愛が我々に注がれ、豊かな実りになると声をかけています。現代社会において人と人とのつながりはスマートフォンなどを通してネットによって広がっています。しかし、生身の人間同士の間には年々、薄くなっているように感じています。

昨年の秋に園長研修会にて神戸大学の伊藤 篤教授の「家庭と地域をつなぐとは／親子に寄り添うとは」という講義を受け

た際に衝撃を受けた言葉がありました。「少子化が進んでいる中で子育て世帯は少数派となっている。」と語られました。我々の人間にはなかなか気が付かない視点ではありますが、昨今、保育施設建設の計画案が出されると、近隣住民からの反対の声が挙がり、建設が実施できなかつた。「電車の中で赤ん坊を連れて乗ると泣き声がうるさい。」などの投書があったり、近親者で子育て中の家族が少なくなっていることから、子育て世帯に対する非寛容な意見がよく聞かれるようになった理由はこの様な状況から始まりました。伊藤先生は統計的にも子育て世帯が減少していること、兄弟姉妹が少なくなり、近隣にも小さな子どもがいないため、自身の子どもが初めての小さい子どもとなる母親も増えていると指摘しています。また、郷里から遠く離れての子育てとなり、親、祖父母も含めて簡単に子どもについての悩みや相談ができる存在がない現状もあります。その様な意味でも保育園、幼稚園、認定こ

ども園の役割が求められていることを学びました。我々が保育園という施設を通して、在園の子ども・保護者はもちろん地域の子ども・子育て世帯の保護者、子どもたちと手と手を握ってつながることが「アウェイ育児」「孤育て」からの脱却に少しでも役立てたらと願っています。保育士と話をすることで、保育園に子どもを預けることにより少くも「ホッ」とできる時間を作ること。悩みが少しでも解消でき、気持ち切り替えて心穏やかに子どもと関わることにつながればと願っています。

今回の原稿を執筆している際（6月3日）に富川直彦理事長が神さまの下へ召されたという知らせを受けました。長年、神戸真生塾を支えていただき、保育園の開設を見守り、行事もそつと様子を見に来ていただいていた。生前、理事長より「謙虚であれ」とメッセージをいただいております。『福祉に携わる人にとって、日常の多忙と多労の中にあつてもすれば自分を他者のために働いている側に置いてしまい、視座が高くなってしまうことがある。』と指摘されておりました。『そのような状況にあつては愛と義が実現される神の国を見失う。』と警鐘を鳴らしてくださいました。『他者に仕える者になると共に自分も他者に助けられていることを忘れてはいけない。』と語ってくださいました。我々は大きな存在を神さまの下に送りましたが、その言葉を実践し日々、保育を守り、自己研鑽に励みたいと思います。長年のお働きに感謝し、ご家族の皆さまの平安をお祈りします。

2015年度より「子ども・子育て支援新制度」が始まり、保育の必要な子どもたちは全て保育所（園）、幼稚園、認定こども園に入ることが出来るようになりました。開園十年を終えて、新しい歩みを始める我々は児童福祉施設として今まで以上に地域に住むご家庭とつながって行こうと思えます。我々がつながることで、我々がつながっている様々な専門機関、助産師を始め保健師やケイスワーカーなどたくさんの方々の生身の人間とつながっていくことになりまます。そのことがまさに「セーフティーネット」になります。そして、我々が手を離さないことは保育理念にも示しているようにイエスさまに神さまにもつながって行きます。様々な事情でお子様を預けて働かれる保護者が増えていく中で「子どものためにも預ける。」という思いを持っていただけるように支援を続けていきます。

《社会福祉法人 神戸真生塾》 二〇一六年度 事業報告

昨年六月に社会福祉法人法と児童福祉法の一部改正が行われ、神戸真生塾も法人としての新しい取り組みを図って参りました。新たな定款の制定の基、大きな制度改革を行い、経営組織の見直しの時でありました。

五月三十一日の理事会、六月十七日の定時評議会及び理事会を開催できたことにより、新たな体制での事業展開が図られることとなったことは、新年度に向けた児童福祉への挑戦のスタートが切れたことに外なりません。

我々の主たる事業であるところの児童福祉の分野に於いて、児童の人権擁護が最大の課題とされて参りました。お預かりしている社会的要保護児童の安全と安心を守りつづけるためには、確固たる体制であり続ける必要があります。そのため、制度や組織の見直しには今一度新たな姿勢と視線で改善を図って行かねばなりません。

全国の流れとしては、家庭養護推進計画によって里親養育への移行が推進されていますが、現状では急速に社会的養護の体制が替わって行くとは考えられませんが、まだ社会的要保護の在り方が工夫されて行くものと思います。

また、社会福祉法人の務めとして、地域福祉への貢献を進めねばなりません。地域のニーズの把握が大切になってきます。私達の法人では七つの事業に取り組

んで参りましたので、夫々の事業の中からニーズの発見が出来ることは、有利と捉えるべきでしょう。そのような思いとともに、新たな体制で臨むための改正点は何処に在るのか、多くの示唆とご協力を頂戴したいと考えますので、皆様には、今年度も宜しくお願い申し上げます。
(富川 和彦)

※今回の事業報告は平成二十九年六月十七日以降に、ホームページにてご確認ください。

二〇一六年六月に施行されました社会福祉法の一部を改正する法律により神戸真生塾の評議員、役員及び新たな評議員選任・解任委員会の委員が選任されました。

- 一、評議員(二〇一七年四月一日付)
 - 赤木 文生、飯 謙、芝野 松次郎、島谷 直美、橋本 明、永松 潔和、山田 篤子
- 二、役員(二〇一七年六月十七日付)
 - 理事長 菅根 信彦
 - 理事 上杉 徹、岡田 長保、敷田 紀久子、富川 和彦、山路 正明
 - 監事 福田 修也、森光 規之
 - 三、評議員選任・解任委員(二〇一七年三月十八日付)
 - 中村 悦子、濱田 栄二、森光 規之

平成二十八年度 行事報告

- 四月
 - ストリートミュージアム (神戸センタープラザ)
 - 春の子ども会 (関西学院高等部)
 - サッカー観戦(ヴィセル神戸) (神戸女学院高等部)
 - カネディアンアカデミー
 - フード&ファンフェスタ
 - ハイキング
 - (カネディアンアカデミー)
 - スクール合同
- 五月
 - 小学生ハイキング(市養連)
 - 幼児レク(市養連)
 - 真陽フェスティバル (地区自治会)
 - 創立記念お祝い会
 - 野球観戦(オリックス)
 - プロレス観戦 (みちのくプロレス)
- 六月
 - 熊野神社夏祭り
 - 元町夜市(元町商店街連合会)
 - プール
 - 琵琶湖キャンプ
 - 教会キャンプ
 - ともしび子どもクッキング (大阪ガスグループ)
 - 納涼大会
 - イタリアンレストランディナー (オリブボール)
- 七月
 - 劇招待(劇団自由会)
 - 乳児院合同ぶどう狩り
 - 善意の釣り大会 (全日本サーフ兵庫協会)
 - アイススケート (六甲ライオンズクラブ)
 - 秋の子ども会(神戸女学院)
 - 子ども会外出
 - ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)
 - イルミネーションバス来塾 (神戸市交通局労働組合)
 - 神戸サウナ餅つき
 - ララちゃんハートフルツアー (イオンファンタジー)
 - クリスマスお食事会
 - クリスマス祝会
 - お餅つき
 - お正月 初詣
 - 小6沖繩旅行 (KOBEM未来号)
- 八月
 - 節分
 - キツザニア甲子園
 - (三井住友海上火災保険株式会社)
 - 神戸イルミネーション (日本イミネーション協会)
 - グリーンカップ(市養連)
 - 児童育成キャンプ (レオクラブ)
 - 卒園・卒業お祝い会
- 九月
 - 女子バレーボール大会
 - 甲子園野球観戦(新日本製菓)
- 十月
 - 甲子園野球観戦(新日本製菓)
 - 女子バレーボール大会
- 十一月
 - 甲子園野球観戦(新日本製菓)
 - 女子バレーボール大会
- 十二月
 - 甲子園野球観戦(新日本製菓)
 - 女子バレーボール大会

《児童養護 神戸真生塾》
創立記念日お祝い会

五月一四日、晴天に恵まれながら神戸真生塾の創立百二十七周年の感謝礼拝とお祝い会、墓前礼拝が行われました。今年度は例年に比べ、十日ほど早くにお祝い会を行ったにも関わらず、神戸真生塾にゆかりのある多くの方々に出席していただきました。会場にいる皆様方と神戸真生塾の長い歴史をたどりながら創立記念をお祝いできましたことを嬉しく思います。

感謝礼拝では乳児院の子ども達も職員と一緒に参加して、礼拝のひとつを過ぎました。聖書朗読では高校三年生の二名が立派に役割を果たしてくれる姿にとっても感心しました。その後は神戸真生塾の富川施設長にお話しをしていただきました。改めて今日までの神戸真生塾を築き上げてこられた先輩方の偉業を再認識することができました。

感謝礼拝が終わると、二階のホールへ移動して食事会を行いました。メニューは神戸真生塾定番のカレーライスです。来賓の方をはじめ、神戸真



生塾にゆかりのある方々との懐かしみながら楽しい食事となりました。また食事の途中には、「神戸真生塾の昔と現在」をテーマにスライド



ショーを流しました。昔から現在も続く琵琶湖キャンプ、クリスマス会といった伝統的な行事はもちろん、小さい子ども達も真剣にスクリーンを見ている姿が印象的でした。食事会の後は、鴨越墓園に墓参りに行きました。これまでの感謝を込めて、墓石をきれいに掃除してからお花を供えました。

神戸真生塾に関わっていただいている方々のおかげで、無事に百二十七周年のお祝いことができましたことを感謝申し上げます。これからも神戸真生塾は創立百三十周年へ向けて歩み続けていきたいと思っております。地域の皆さまをはじめ、多くの方に愛される神戸真生塾となることを願います。

(北浦 貴子)

CFJの活動報告

神戸真生塾広報誌「愛」とご縁があり、チャイルド・ファンド・ジャパン(CFJ)の西川涼子様は活動の報告を記載して頂くことになりました。

一九七五年よりアジアの子ども達を支援している国際協力NGOのチャイルド・ファンド・ジャパンです。神戸真生塾の職員の間には一九七六年よりフィリピンの子どもたちをご支援いただいております。現在も三名の子どもたちがご支援により、毎日元気に学校へ通っています。

チャイルド・ファンド・ジャパンの前身は、基督教児童福祉会(CCCA)という社会福祉法人でした。第二次世界大戦直後、戦争で親をなくした日本の戦災孤児たちが暮らす児童養護施設をアメリカのキリスト教児童基金(CCF)が支援し、基督教児童福祉会(CCCA)はキリスト教児童基金(CCF)からの支援金受け入れ窓口として、日本の事務局の役割を果たしてまいりました。支援を受ける施設は一〇〇近くまで増え、神戸真生塾もそのひとつでした。支援者はアメリカやカナダの必ずしもお金持ちではない、ごく普通の暮らしをする市民だったそうです。キリスト教児童基金(CCF)からの支援は一九七四年まで続き、その二十六年間で八万六千人もの日本の子どもたちが支援を受けました。

その間に日本は経済成長を遂げ、児童養護施設への行政からの措置費が充実してきました。

基督教児童福祉会(CCCA)は各施設と協議し、さらに施設長の方々とアジア各国を視察し、想像を絶する厳しい環境下にある子どもたちの状況を目の当たりにしてキリスト教児童基金(CCF)からの支援を辞退することを決定しました。そして支援の順送り一九七五年からフィリピンでの支援活動を開始しました。今までに三万人以上の子どもたちが日本の皆さんから支援を受けました。神戸真生塾の職員の間には四十二年の間十八人の子どもたちをご支援いただいております。長きに渡ってお支えくださいますこと、心から感謝申し上げます。



《乳児院 真生乳児院》

乳児の愛着形成について

真生乳児院院長

愛こどもクリニック院長

数田 紀久子



愛着 (attachment) という言葉は、愛着行動を指す場面もあれば、情緒的絆 (bonding) を指す場合もあります。では愛着行動とはどんな行動でしょうか？ 乳幼児は、発信（泣く、見る、笑いかける、呼ぶ、話しかける）、移動運動（近づく、後ろをついていく）、接触（触れる、よじ登る、抱きつく、まとわりつく）などの行動をとる事によって、養育者を自分に引きつけて、養育者からの世話を効果的に引き出していると考えられています。これらの行動はすべて良好な養育者との絆の形成に



役立ちます。この愛着行動は、成長とともに発達していきます。誕生から2〜3歳までに、児は養育者への愛着を徐々により強固なものにしていき、養育者を安全基地とするようになります。3歳以降になると、愛着対象の人が自分とは異なった気持ちや感情を持つ事がわかり、場合によっては、相手の気持ちや感情に合わせて自分の行動や欲求を変える事ができるようになり、他人と協調した関係を作れるようになります。もし愛着形成が何らかの理由（不適切な養育など）によって妨げられた時には、どうなるのでしょうか？子どもの知的発達には生来の能力に加えて、養育者とのやり取りなどの環境からの刺激をうける事によって伸びていきますが、それが不十分で環境からの刺激が少なかったり、愛着関係ができていなければ、子どもの認知発達に遅れが生じます。また対人関係の基礎となる基本的信頼感が得られないと、常に不安や不信感を抱えながら人と関わっていく事になります。不信感が基礎になると、大人からの指示を聞く事や、他の

人と良好なやり取りを行う事が難しくなります。例えば、愛着関係を基盤にして、自分の感情をコントロールする経験が十分に得られないと、感情が高ぶるとパニックや暴力といった行動で表すようになったり、逆にちよつとした事でもひどく動揺して落ち込む事にもなります。苦痛を感じても、慰めや安らぎを求めようとしない、あるいは周囲に助けを求め場合でも、特定の人ではなく、誰に対しても求める事もあります。乳児院の職員は、まさしく生後間もない時期から4歳くらいまでの乳幼児と関わっています。人間の一番古い記憶は、4歳が最も多く、その次が3歳、それより小さい時期の記憶はほとんど残っていないとされています。しかし、記憶には残らないであろうこの時期が、彼らのこれからの人生に大きく関わっていく事をしっかりと受け止めて、私達は子ども達に寄り添い、子ども達が当たり前の生活を心穏やかに過ごせるように、見守っていきましょう。

平成二十八年度行事報告

- 四月 お花見
- 五月 こどもの日
いちご狩り
- 六月 創立記念
合同遠足
- 七月 七夕
プール遊び
- 八月 納涼大会
デイキャンプ
琵琶湖キャンプ
(養護)
- 九月 合同運動会
(市乳児連盟)
- 十月 院内運動会
バーベキュー
- 十一月 人形劇合同交歓会
(市乳児連盟)
- 十二月 収穫感謝祭
クリスマス祝会
- 一月 お餅つき
- 二月 お正月
節分
- 三月 ひなまつり
- 毎月 お泊り保育
- ・お誕生日会 お喰い初め

6月の園だよりより

★4・5歳児クラス

5月は「いちご狩り遠足」に行きました。当日は気持ちよく晴れて絶好の「いちご狩り日和」となりました。バスでの道中は、どこからともなく「もう着きましたか？」という声が常に聞こえてきました。車窓から見える景色について話したり、トンネルの入口ではなぜかカウントダウンが始まったり、歌をうたったりしながら楽しく過ごしました。農園に着くといちご畑にまっしぐらに走り出し、可愛らしく真つ赤に実ったいちごをよく観察していました。農園の方の説明では「ウンウン」とうなずきながら、食育などで学んだ、自分が知っている知識と一生懸命に照らし合わせているようでした。いよいよお待ちかねのいちご狩りが始まると「赤いのどこー?」「それ（緑色）はまだ赤ちゃんやから!」「大きいのとれたー!」「赤いけどまだ小さいから赤ちゃん?」などと可愛らしい会話がたくさん聞こえてきました。手も口の周りも、ほっぺやおでこまで赤くし

ながらおいしそうに食べる子どもたちでした。

4・5歳児担任

藤津綾萌・岡本拓馬



★3歳児クラス

5月は折り紙にも挑戦しました。初回ということもあり、折り紙の「角と角を合わせる、三角折り。」を始める前に「角って何?」「どこにある?」「何個ある?」「どこから話をし、角探しも楽しみました。みんな「角」の存在も確認して「カ・

ド!!」と言いながら「角さん」と仲良くなり親しみを持って折り紙あそびを行いました。可愛いイチゴが出来上がり、カゴに入れてお部屋に飾っています。

また、「花あそび」では「イチゴ畑を作ろう!」ということ、イチゴによく似たお花の生け込みをしています。マトリカリアを「マトちゃん」千日紅を「せんちゃん」と呼び、お花を配られて手にした子どもたちの目は輝いていました。お花の名前をたくさん呼ぶことで、身近にそして親しみを持って活動にのぞんでいました。どこに活けようかな?と考える姿や早く呼ばれて活けたい!と待ちきれない様子もありました。どんな姿も期待感を持ってくれていると感じた瞬間でした。

3歳児担任 山口芽久未

★2歳児クラス

進級してから2カ月が経ち、いろいろなことに挑戦する姿が見られています。あそびでは少しずつではありますが「友だち」を意識しながら友だちが行っているあそびにも興味を示して一緒にあそんでみようとする姿が見られてきました。その中で全体活動として「ふれあいあそ

び」をたくさん取り入れるようにして、より友だちと一緒にあそぶことの楽しさを味わえるように努めています。現在行っているふれあいあそびは、みんな

でクラスの一人ひとりの友だちの名前を呼んで、呼ばれた子は「はい!」と返事をするというやり取りを楽しんだり、椅子を円になるよう並べて歌をうたいながら歩いていき、好きな友だちと握手や「ムギュー」をしてふれあっています。また、先日は「むつくりくまさん」というあそびを行いました。くま役の保育士を囲んでみんなで輪になり、隣の子と手をつなぐのですが、時間が経つにつれて手が離れてしまう子も中にはいました。が、それでも意欲的に参加してみんな「くまさん!」と大きな声で呼び、くま役の保育士に追いかけられることを喜んでいました。今後もふれあいあそびは繰り返し行っています。

2歳児担任 小國明日香

★0・1歳児クラス

初めて制作した「こいのぼり」も良い作品となりました。1歳児はシールをベタベタと言いな

らウロコの部分を貼りまして、0歳児は手に絵の具を塗り

つけて「にぎにぎ」と握って模様をつけました。こいのぼりが完成すると子どもたちは大喜びでした。そしてこどもの日のつどいに向けて「こいのぼり」の歌も毎日うたいました。部屋の中でもこいのぼりが身近に感じられるように、こいのぼりのモビールなどを飾っています。子どもたちは歌が始まるとそのモビールを指さしながら歌いやすい歌詞のところだけになります。が、うたっています。日中もこいのぼりを見つけると「あっ! あっ!」と言いながら「屋根よ〜り〜!」とりたい始めます。この様な可愛らしい姿たくさん見ることができるようになりました。

0・1歳児担任

廣瀬加恵・青木梨花



新任職員紹介

児童養護施設



川野 結衣

〔趣味〕 サッカー観戦、キャンプ
〔野外活動〕

〔特技〕 体を動かすこと(サッカー)、
トワリング

〔抱負〕 いつも笑顔で、子どもたちのことを「知りたい」「分かりたい」という気持ちを忘れずに、出逢いを大切にできる職員になれるよう頑張りたいと思います。



中野 風香

〔趣味〕 舞台観劇

〔特技〕 お菓子作り

〔抱負〕 慣れないことばかりで大変ですが、子どもたちと笑顔で楽しく過ごしていきたいと思いたくさんのことを子どもたちと一緒に経験していきたいです。

ロータリーこどもの家



谷 知純

〔趣味〕 読書、料理

〔特技〕 場所が変わってもぐつすり眠ることができる。

〔抱負〕 ロータリー子どもの家に配属されました、谷知純といいます。多様な見方で物事を考えられるよう、普段から意識して過ごしたいと思えます。よろしくお願ひ致します。



菅田 有希子

〔趣味〕 ライブ

〔特技〕 部屋の模様替え

〔抱負〕 ロータリー子どもの家で心理担当をさせてもらっている菅田です。まだ戸惑うことも多く、ご迷惑をおかけするかと思いますが、精一杯するので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

自立援助ホーム子供の家



原田 純

〔趣味〕 ドライブ、カラオケ、料理

〔特技〕 スポーツ、ジエンガ、犬のしつけ

〔抱負〕 社会人としての第一歩を神戸真生塾で迎えることができ、本当に嬉しく思います。これまで私を支えてくれた家族・仲間への感謝の気持ちを忘れず、一生懸命頑張ります。

きらきら保育園



岡村 孝美

〔趣味〕 町探訪、テニス、ストレッチヨガ

〔特技〕 手芸

〔抱負〕 今まで培ってきたものを温厚しつつ、新たな気持ちで子ども達と笑顔で過ごせるよう自分自身も楽しみたいと思えます。一緒に居心地がいい人であられるよう心がけています。

真生乳児院



小野川 奈稀紗

〔趣味〕 読書

〔特技〕 裁縫

〔抱負〕 憧れていた職業に就くことができとても嬉しいです。子どもたち一人ひとりのかわわりを大切にしていきたいです。不安な気持ちもありますが精一杯頑張りたいです。



藤野 絢香

〔趣味〕 音楽鑑賞

〔特技〕 トランポリン

〔抱負〕 子どもにとって安心の場になれるよう信頼関係を築いていきたいです。まだ未熟ですが、先輩方の姿を見て日々成長していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



加藤 愛理

〔趣味〕 ライブに行くこと

〔特技〕 書道

〔抱負〕 子どもたちが食事の時間を安心して過ごせ、また食べることの楽しさを伝えられるような食事作りを目標に頑張っていきたいです。



ありがとうございました

寄付並びに児童招待びび芳名

敬称略・五十音順
(二〇一七年二月一日〜二〇一七年五月三十一日)



寄付金

- 小椋 正典
- 數田 紀久子
- 家庭養護促進協会
- 関西学院
- 宗教活動委員会
- 勝木 光江
- 神戸グローバル
- チャリティーフエステイバル
- 神戸聖愛教会女性会
- 神戸昇天教会
- 神戸教会
- 神戸女学院
- 白坂 精子
- 松陰女子学院
- 住本 義則・淳子
- 斉藤 仁美
- 瀬沼 民子
- 捜真女学校
- 富川 直彦
- 鳥京
- 中村 悦子
- 中村 淳子
- 日本基督団
- 橋本 明
- 松本 緑
- 神戸多聞教会

寄付物品

- 綿谷 栄子
- 沖繩タイムス社
- カワタリ電機
- 神果 神戸青果(株)
- 神戸ひと街創り協議会
- ファイリッップモリスジャパン(株)
- マルイ
- P & G

児童招待行事等

- 神戸女学院 高等部
- 関西学院 高等部
- 三宮ひと街創り協議会
- 三宮センター街
- 2丁目商店街復興組合
- 長田真陽民生委員
- 日本イルミネーション協会
- 兵庫県青年司法書士会
- 三井住友海上火災保険(株)
- ライオンズクラブ国際協会レオクラブ
- ROYAL(株)

以上

子どものびび

★食前のお祈りをして隣の部屋のKちゃんの声がとても大きく、それを聞いていたRちゃんが思わず一言。「あんなに大きな声やったら、神様びっくりしちゃうなあ。」

(六歳 女兒)

★明日の朝ごはん「しゃもじゅ?」:うん??ああ、ししゃものことね!かわいかったので、もう一回言ってお願ひしたら、怒ってました。やっぱりかわいい。

(六歳 男児)

★Kくん好きな食べ物?と聞くと「カレー」。Aちゃんに苦手なことは?と聞くと「リーレ」と書きました。兄妹揃って、のばすところ間違ってるよ。

(八歳 男児・六歳 女兒)

★夕食のブロッコリーのマヨネーズ和えを見たKくんが、思わず一言。「このブロッコリーしゃきつとしてない。確かにマヨネーズで和えられているから元気なく見えたんだね。その一言で食卓に笑顔があふれました。」

(六歳 男児)

★どうもろこしをゆっくり何度言っても「どうろもこし」に。

(六歳 男児)

★水族園のイルカショーに目を輝かせて「イルカ、かわいい〜!」と見つめていたRちゃん。ごほうびに小魚をたくさんもらっている様子を見て一言。「Rはイルカにはなりたくない...」。そうだね、Rちゃん魚料理が苦手だもんね...

(六歳 女兒)

★お風呂あがり、職員が顔に化粧水や乳液をせつせと塗っている姿をじっと見ていたYちゃんからの一言。「おとなって、たいへんやな。」

(五歳 女兒)



子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時～午後6時(緊急の場合は夜間も可)

神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)

Homepage <http://www.rotary-kodomoioie.org/>

facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomoioie>



子育てに困ったら
先ず電話相談!

子ども家庭支援センター

ロータリー子どもの家

2016年度の相談実績は、一般相談2,208件(実人数271人)、指導委託ケース相談1,189件(実人数8人)、被虐待児地域見守り事業ケース相談145件(実人数3人)でした。相談の総件数は3,542件(実人数282人)となり、2015年度の2,491件から約42%の増加となりました。また、相談者と子育て支援事業等の参加者の総のべ人数は12,551人となり、2015年度の11,277人に比べて約11%の増加となりました。

児童福祉法改正をはじめ、子育て支援の枠組などが変革の時を迎えており、児童家庭支援センターにおいても位置づけや役割が変わりつつあります。昨年度より、相談件数による加算や指導委託費創設などがなされ、相談件数で評価されることとなりました。つまり児童家庭支援センターは、虐待予防を含めた健全育成などの事業ではなく、専門性の必要なケースへの支援を求められるようになりました。

さらに、神戸市においては被虐待児地域見守り事業が始まり、2016年12月より当センターへの委託が開始されました。児童相談所より、虐待通告などにより一時保護されたケースのアフターケア

相談・利用のべ人数表(人)

相談	電話	1,678	3,542
	来所	1,089	
	訪問・派遣	591	
	その他	184	
利用	野外活動	352	9,009
	子育てひろば	644	
	子育て講座	168	
	プレイルーム利用	5,140	
	その他	2,705	
合計			12,551

等の支援を行っていますが、虐待のみならず発達障害や不登校、親の精神疾患等の複合多問題ケースが多く、高い専門性を求められています。ソーシャルワーカー、心理士、保育士がチームとなり関係機関と連携を取りながら対応しております。

これからも相談業務を中心に据えながらも子育て支援事業とのバランスを図りながら地域の子育て支援を展開していきたいと考えております。



神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センター
ロータリー子どもの家センター長)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
森本 みずき (真生きらきら保育園 主任保育士)
網谷 仁志 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
苦情解決責任者 富川 和彦 (児童福祉施設 神戸真生塾 施設長)
数田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
上杉 徹 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
第三者委員 森光 規之 (当法人 監事)
中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)

苦情受付件数 平成29年 2月から5月末まで 5件

編集後記

昨年度末、それぞれの自立の道を歩むことになった4名の退所児を送り出したのも束の間、4月には新しく職員や子どもたちを仲間を迎え入れ、賑やかに神戸真生塾の日々は流れています。このたび、編集に携わることとなり、創刊号からこれまでの広報誌を読み返しましたが、本当にたくさんの方々の思いがこの『愛』に詰まっていることに改めて気付かされ、これからも『愛』を通してその思いをつないでいくことができればと思います。

(時岡)